

1 序

1.1 WebCT とは何をするもの？

Web には以下のような特質から派生する様々な利点があります。

- 色々なデジタルメディアを関連づけて提示できる (マルチメディア活用)
- ネットワークに繋がっていればどこからでもアクセスできる (アクセス性)
- 見るだけではなく、利用者が情報を送信することもできる (双方向性)

これらを活用すれば現在の授業をより良くしていくことができるだろう、と考えておられる方がこの小文をご覧になっていることと思います。最近の映画や雑誌、TV 番組等が各々独自のホームページを持っているように、大学で行なわれているひとつひとつの授業にもホームページがあれば、様々な Web のメリットを利用することができます。

しかし、大学教官は多忙であり、また必ずしも Web サイト構築のエキスパートではありません。

昨今、良質な Web ページ作成ソフトウェアが出現していることや、オフィス系ソフトウェアなども Web ページ作成の機能をサポートしていることから、Web ページそのもの (Web コンテンツ) の作成はかなり楽になってきました。それでも、大学教官が Web を授業に利用しようとする際には、少し考えただけで多くの技術的な壁が発生します。

例えば、Web のアクセシビリティを活用し、受講者に授業用資料を提示したいと考えたとしましょう。まったくオープンにしても良いものであれば、ただ Web サーバに上げておくだけです。しかし内容によっては一般的に公開する事があまり好ましくないものがあるかもしれません。こういった場合にはなんらかのアクセス制限をかける必要があるわけなのですが、その設定と維持はあまり容易ではありません。ま

た、ちゃんと Web サイトにアクセスしているのはどの学生なのか、もっとも学生がよく開いているページはどれなのか、と言ったことを調べるためにはなんらかの仕掛をあらかじめ施しておいたり、Web サーバのアクセスログを漁ったりする必要があります。

例えば Web の双方向性を利用して、教室外での議論とコミュニケーションの場を設けたいと考えた場合はどうでしょうか。一般に公開されている掲示板 CGI プログラムを設置するだけでも、結構学習すべき事は多くあります。また、学生の理解度をチェックするために Web 上に簡単なテストやアンケートを設置することも可能ですが、この設置と維持は Web サイト構築に慣れていない方にとってはそれ程簡単なことではありません。

WebCT は、Web を授業で活用するための様々な機能を提供し、教官の方々の労力を軽減します。WebCT を使うと、以下のような機能を持った Web ページを構築することができます。

- 文書・画像・映像・音声を含んだ教材の配布
- 小テスト・レポートによる学生の評価
- 検索可能な索引・用語集・画像データベースによる学習補助
- Web 上の教育資源の統合
- 学生が知識を強化する機会の提供
- 掲示板・電子メール・チャット・ホワイトボードによる学生との対話
- 成績管理
- オンライン成績表・自己診断テスト・進行状況チェックによる学生へのフィードバック
- 授業を評価するデータの収集

WebCT とは、一言で言ってしまえば「授業のホームページを運用するためのツール」なのです。

1.2 WebCT システムの概要 (1)

WebCT は、Web サーバ上にインストールされたシステムです。教官と学生は、Web ブラウザを通して WebCT を利用することになります。

利用に際しては、利用者名 (WebCT ID) とパスワードによる認証が必要です。利用者情報の管理は、WebCT 管理者が行なっています。認証が通ると、myWebCT と呼ばれる WebCT システムのスタートページが表示され、ここに自分が登録されている全てのコースが一覧表示されます。コースとは WebCT でコンテンツを扱う単位であり、各コースはコースへの登録利用者一覧とコースコンテンツを持っています。

すなわち、

- WebCT へのアクセスには、WebCT システム自体へ登録され、利用者名とパスワードを知っていること
- さらにコース内容へのアクセスにはそのコースへ登録されていること

が必要になります。

WebCT の利用者の区分けとして学生と教官と言うものがあるわけではありません。学生も教官も同じレベルで WebCT システムに登録されており、特定のコースへ利用者を登録する際に、学生として登録するか、教官として登録するかという差があるだけです。コースへ教官として登録されている場合、その利用者は当該コース内での全ての権限を持つこととなります。WebCT ではこの利用者をデザイナーと呼んでいます。学生とデザイナー以外に TA というアクセスレベルもあります。TA は、コンテンツの改変以外のほとんどの作業を行なうことができます。

現在の広大の WebCT システム設定は下記のようになっています。

- WebCT ID の登録はシステム管理者が行なう (注: 後述する学生管理ツールを使うとデザイナーが大学院生などを登録することはできる)
- コースの作成はシステム管理者が行なう
- コースへの一人目のデザイナーの登録は管理者が行なう
- コースへの学生の登録はデザイナーが行なう
- コースへの二人目以降のデザイナーの追加は、デザイナーが行なう
- コースへの TA の登録はデザイナーが行なう

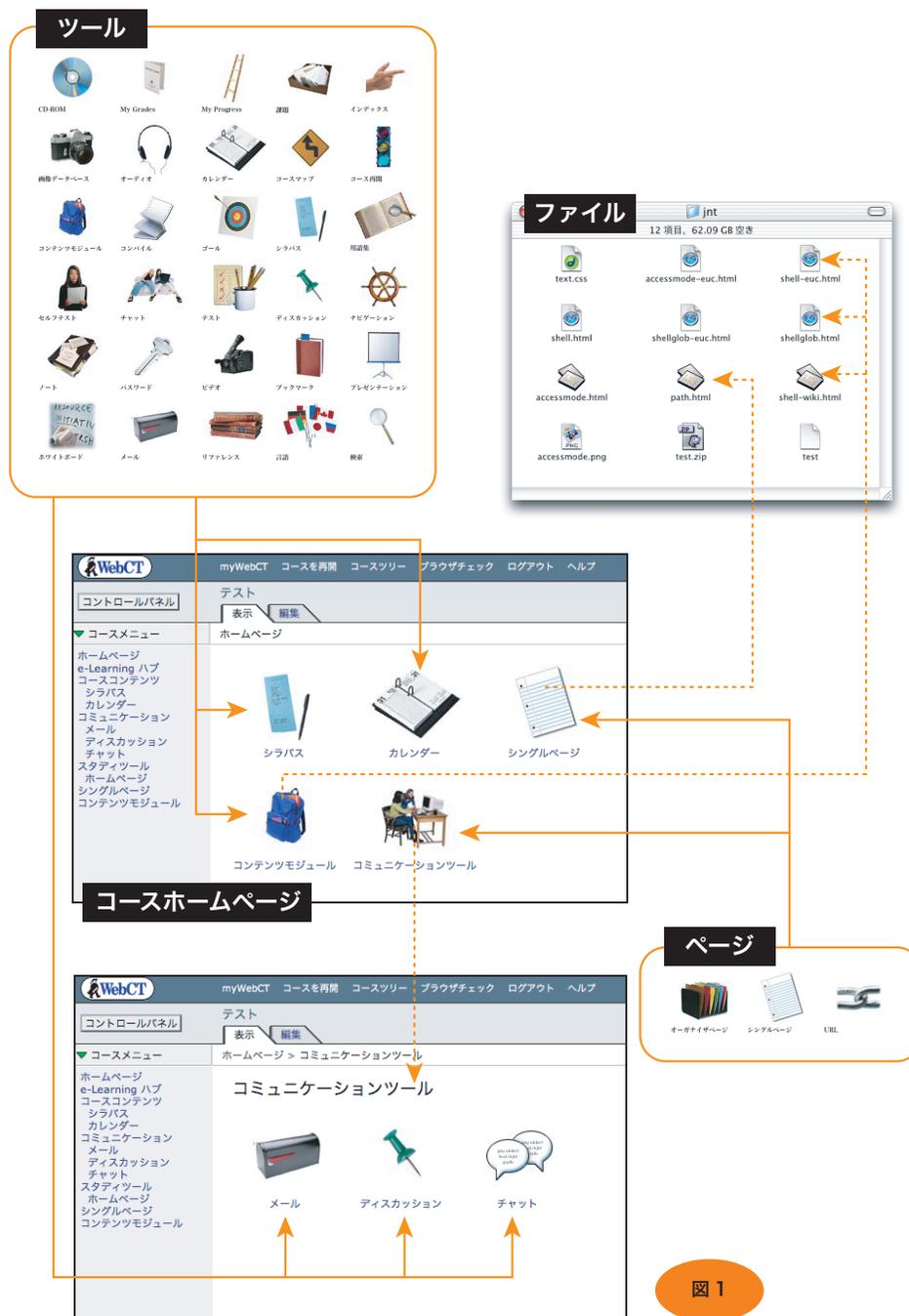


図 1

1.3 WebCT システムの概要 (2)

さて、コースにアクセスすると、そのコースのホームページが開かれるわけです。コースのホームページの内容と外観は全てデザイナーが設計することになります。WebCTでは、コースのホームページの構成要素として大きく三つのものがあります。

一つ目は「ファイル」です。これはデザイナーがWebCTの機能や自分のパソコンで作成したHTMLファイル、またはGIF・JPEGなどのイメージファイル、PDFやWord等の一般的なファイルです。要するに、デザイナーがその中味を自分で作成したファイルですね。コースホームページ中でこれらのファイルは利用するには、一旦WebCTシステム上にアップロードする必要があります。

二つ目は「ツール」と呼ばれるものです。掲示板や小テストなど、WebCTが提供する色々な機能がツールと言う単位で取扱われ、必要なものだけをコースのホームページへ追加して行くことができます。

三つ目は「ページ」です。このカテゴリには、サブディレクトリのように機能する「オーガナイザページ」と、「ファイル」の内容を表示するための「シングルページ」、外部サイトにあるWebページを表示するための「URL」があります。

デザイナーは、二つ目の「ツール」と三つ目の「ページ」を任意に配置して行くことにより、コースホームページを構築していきます。

1.4 WebCT を授業に利用する

授業で WebCT を活用する方法は、十人十色さまざまに考えられます。一例を図に示します。予習→講義→復習のサイクルの各所で、WebCT を活用することができます。

まず予習段階では、次回の講義のポイントを示し、予習ための参考資料を提示しておくことができます。講義の際に使う資料を事前に WebCT に提示しておき、印刷したものを学生に持参させると言う方法はよく行なわれています。

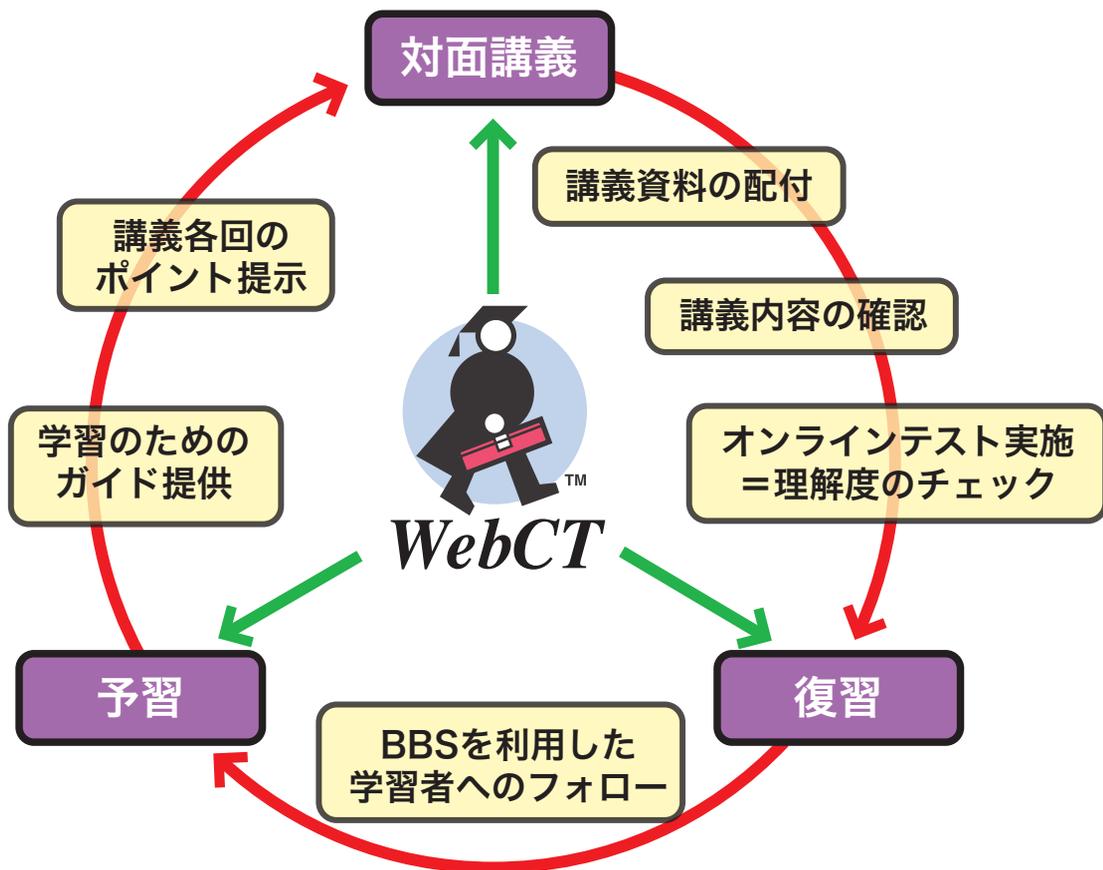


図 2

第一回日本 WebCT ユーザカンファレンス
発表資料（広島大学安武公一氏）より。

コンピュータが利用できる教室では、講義中に WebCT に提示した資料を閲覧しながら授業を行なうこともできます。学生がコンピュータを利用できる教室はまだごく少数ですが、教官卓で WebCT の画面を提示しながら授業を行なうことは現在でも十分可能です。将来的には学生が持っている情報端末で各人が教材を閲覧しながら授業を行なうことが可能になるかもしれません。

講義終了後、小テストやセルフテストの実施により、学生の理解度をチェックすることができます。オンラインで行な

う小テストは、学生は結果をすぐ知る事ができますし、教官からも学生の成績が即座に確認できます。

予習・復習の間を通して、BBS により質問を受けつけたり、学生間の議論を促したりと言った学習者へのフォローが行なえることも大きなメリットとなるでしょう。

これらの機能を学生と教官が積極的に利用することにより、従来ないがしろにされがちであった予復習の時間を有効に活用できるようになります。

2. チュートリアル

2.1 WebCT へのアクセス

必要な環境

WebCT を利用するには、最低限以下の機能を持った Web ブラウザが必要です。

- JavaScript が利用できる
- フレームに対応している
- UTF-8 の表示が可能である
- SSL 通信ができる

現在一般に利用されているほとんどの Web ブラウザはこの条件を充たしています。

数式エディタ、HTML エディタ、チャット、ホワイトボードなどの機能は Java アプレットで実装されていますが、これらはブラウザによっては機能しないことがあります。

WebCT 社によって正式にサポートを表明されているのは左下表 1 に掲げたブラウザだけです。これら以外の OS とブラウザでも、上記に示した Java アプレット以外の部分はほとんど動作するようです。

ブラウザの設定

JavaScript, Cookie, Java を利用できるように設定しておいて下さい。

myWebCT への道

広大な WebCT システムの URL は

<http://webct.riise.hiroshima-u.ac.jp/>

です。ブラウザの URL 記入欄にこのアドレスを記入し、エンターキーを押します。

図 3 のようなエントリーページが表示されます。ブックマークに WebCT を追加する際にはこのページを使って下さい。これ以降のページにブックマークを付けると、ログインがうまくいかない場合があります。

エントリーページの「ログイン」をクリックすると、図 4 のようなページが表示されます。WebCT ID とパスワードを記入し、「ログイン」ボタンをクリックして下さい。広大における WebCT ID の発行状況については、3.1 を参照して下さい。

認証がうまくいくと、図 5 のような画面が表示されます。この画面が各利用者の WebCT システムにおけるスタートページとなります。myWebCT と呼ばれています。



図 3

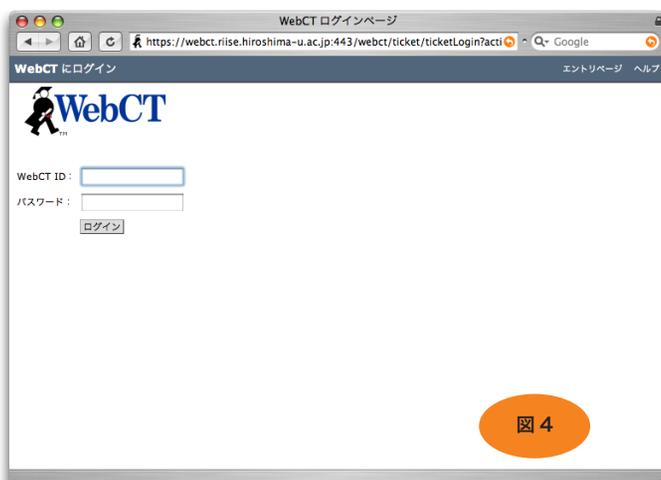


図 4



図 5

表 1: 正式にサポート表明をされているブラウザ

Windows	Microsoft Internet Explorer	5.0, 5.5, 6.0
	Netscape Communicator	6.2.x, 7.0, 7.1
	AOL	7.0, 8.0
	Mozilla	1.5
Macintosh	Microsoft Internet Explorer	5.1, 5.2
	Netscape Communicator	6.2.x, 7.0, 7.1
	AOL	OS X
	Mozilla	1.5

コントロールパネル (デザイナーのみ)

メニューバー

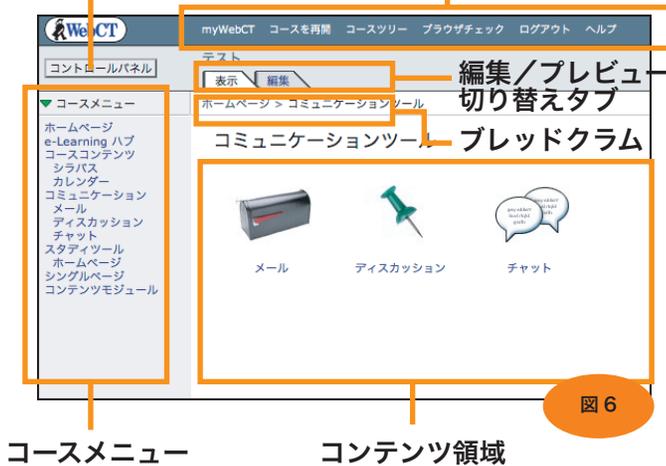


図 6

コースメニュー

コンテンツ領域

2.2 コースの表示

各コースの表示形式はデザイナーの設定によって大きく異なります。あまり手を加えていないものを図6に示します。

デザイナーとしてコースにアクセスしている場合、メニューバーの下に「表示・編集」というタブが表示されます。「表示」をクリックすると、学生が見る画面とほぼ同じ状態(プレビューモード)になり、「編集」をクリックするとコースの内容を変更できる状態になります。

「表示」をクリックして、プレビューモードにしても、学生が見るものと全く同一と言うわけでは無いことに注意が必要です。主に次の点が異なります。

- コンテンツモジュール(後述)の内容に変更を加えた場合、「学生ビューの更新」をするまで学生は変更部分を閲覧できません。
- 小テストに答えることができません。自動採点の振舞や採点結果の公開方法などを確認するには、学生としてアクセスするしかありません。
- 条件付の表示にしたツールも全て見えます。付加した条件がきちんと機能しているかどうかは、学生としてアクセスしないと確認できません。

チェック用のダミー学生を登録して、学生としてコースのできればを常にチェックする事をお勧めします。ダミー学生用途のWebCT IDを幾つか用意していますので、ご利用下さい。詳細はセンターホームページの「WebCT 教官向け情報」をご覧ください。



図 7

2.3 コースの作成

新しいコースにはじめてアクセスすると、図7のような「コースデザインセンタ」が表示されます。これは、流行のWizard形式で質問に答えていくとコースの雛型ができると言うものです。ここでは、これは使用しませんので、「コースデザインセンタを後で使用します」をクリックして下さい。

すると、図8のような空白のコースホームページが表示されます。

前章でWebCTのコースは三つの要素で構成すると書きました。「ファイル」「ツール」「ページ」です。

「ファイル」を管理するには、コントロールパネルの「ファイル管理」をクリックします。「ファイル管理」をクリックすると、WebCTサーバ上に保存されている、デザイナー作成ファイルの一覧が表示されます。これらのファイルが保存されている場所をMy-Filesと呼びます。My-Filesは各コース毎に準備されています。

「ツール」と「ページ」を追加するには、コントロールパネルの「ページまたはツールを追加」をクリックします。図9のような表が表示されます。ここにはWebCTのコースで利用できる全てのページとツールが列挙されており、ここから追加したい物を選びます。



図 8

ページまたはツールを追加
コースに追加するページ・ツールを選択します。
 利用可能な場合にウィザードを使用

ページ	コースコンテンツツール	コミュニケーションツール	評価・アクティビティツール	学生ツール
オーガナイザーページ	シラバス	ディスカッション	テスト・アンケート	学習記録
シングルページ	コンテンツモジュール	メール	セルフテスト	成績表
URL	用語集	チャット	課題	言語選択
	画像データベース	ホワイトボード	学生プレゼンテーション	
	インデックス	カレンダー	学生ホームページ	
	コンテンツユーティリティ	学生ティップス		
	検索			
	コンパイル			
	コースを再開			
	CD-ROM			

図 9

2.4 シラバスツール

授業の目的や計画と言った概要情報を提示するため、シラバスツールを使うことができます。

まず「コントロールパネル」の「ページまたはツールを追加」をクリックしましょう。利用できるアイテムの一覧が現われますから「シラバス」を探してクリックします。

追加する「シラバス」ツールの設定画面が現われますので、図 10 のように入力します。(テキストボックスの中は任意に変更して構いません)

他のページやツールでも同様なのですが、コースに追加するアイテムに対しては

- ホームページにアイコンとして表示される
 - コースメニューにテキストアンカーとして表示される
- のいずれか一方または両方の見え方を選びます。

「追加」ボタンをクリックすると、コースのホームページに切り替わります。今追加した「このコースについて」が新しいアイコンとして表示されています。「このコースについて」のアイコンをクリックして下さい。

ここから「シラバス」の内容を作成するため、以下の手順に従って下さい。

1. 画面右「オプション:」の下のポップアップメニューから「コース情報」を選び、「追加」をクリック。
2. 「コース情報セクション」のテキスト欄に適当な情報を入力(図 11)
3. 「追加」をクリック。
4. 画面右「オプション:」の下のポップアップから「インストラクタ情報」を選択し、「追加」をクリック
5. 「インストラクタ情報セクション」のテキスト欄に適当な情報を入力。
6. 「追加」をクリック。
7. 以下同様にして必要と思われるセクションを加えます。

最初から完全な情報を入力する必要はありません。後からいくらでも変更が可能です。ひとまず入力が終わったら、メニューバーの「表示」タブをクリックしてください。作成した「シラバス」ツールの内容がプレビューできます。

ブレッドクラムの「ホームページ」をクリックすると、シラバスツールのアイコンがコースのホームページに追加されているのが確認できます。左側の「コースメニュー」にも追加したシラバスツールのタイトル「このコースについて」が追加されていることを確認してください。



図 10

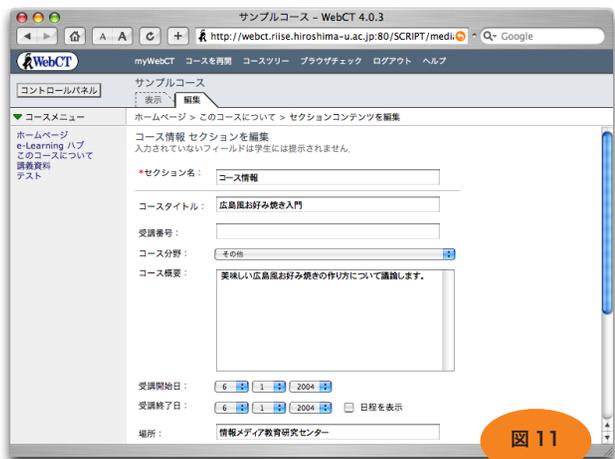


図 11

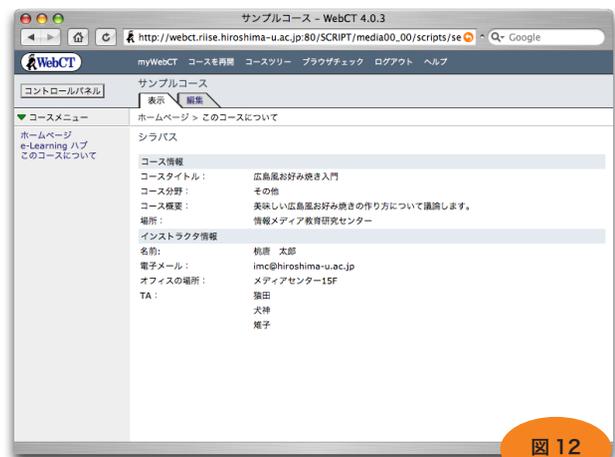


図 12

2.5 コンテンツモジュール

次に「コンテンツモジュール」ツールを追加しましょう。「コンテンツモジュール」はデザイナーが作成した HTML ファイルなど(My-Files に納められている)を表示するためのツールです。同様な目的に使われる物として「シングルページ」があります。両者の違いは、「コンテンツモジュール」では複数のファイルを目次で管理して提示し、ページトラッキング機能が利用できることにあります。ページトラッキング機能は、学生がどのコンテンツをアクセスしたのかを調べるものです。

図 13 のように、オーガナイザページとシングルページを組み合わせてコンテンツモジュールと同じような機能を提供することができますが、ページトラッキング機能は使えません。

さて、コンテンツモジュール内で利用されるファイルは主に HTML ファイルになるわけなのですが、この作り方には 2 通りあります。一つ目は WebCT 内で作成する方法、二つ目は手元の PC で作成した HTML ファイルをアップロードして使う方法です。

いずれの方法を採っても、最終的には My-Files 内に HTML ファイルが作成され、コンテンツモジュールの目次からそれらファイルへのリンクがはられます。

ここでは両方の方法を試してみましょう。まず WebCT 内でファイルを作成する方法です。

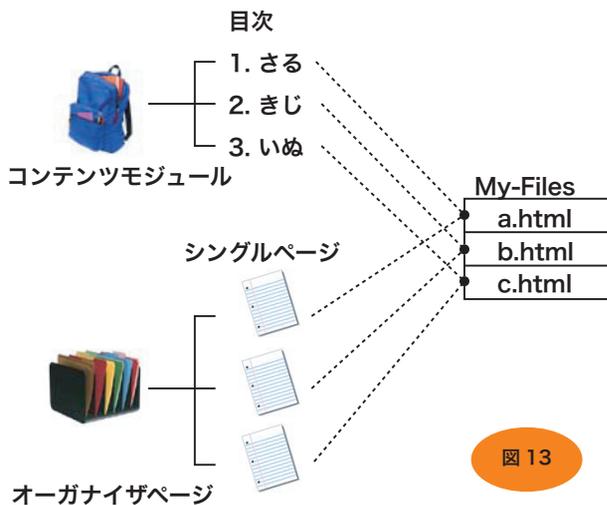


図 13



図 14



図 15

1. コンテンツモジュールを作成する

- 1.1 「コントロールパネル」の「ページまたはツールを追加」をクリック
- 1.2 「コンテンツモジュール」を探してクリック
- 1.3 「コンテンツモジュールを追加」画面が表示される
- 1.4 コンテンツモジュールのタイトルに「講義資料」と入力
- 1.5 さきほどと同様に「ナビゲーションバー」と「ホームページ」にリンクが作成されるようにチェックボックスをクリック。

1.6 「追加」をクリック

2. コンテンツモジュール編成画面へ移動

- 2.1 「講義資料」をクリック。
- 2.2 コンテンツモジュールの目次を編集する画面が表示される

3. HTML ファイルを作成する

- 3.1 画面右「オプション：目次」の下の「HTML ファイルを作成・編集」をクリック (図 14)。

4. HTML ファイルの内容を書く

- 4.1 図 15 のような画面になるので、ファイル名に「1_intro.html」と記入する。
- 4.2 図 15 の「ファイルの内容」の部分には、HTML ファイルの雛形が表示してある。この雛形の中のタイトル部分と本文部分を変更する。

4.3. 図 16 のように入力。(テキストボックスの中は任意に変更して構いません)

4.5. 「保存」をクリック

これで HTML ファイルが作成され、コンテンツモジュールから閲覧できるようになっているはずですが。試してみましょう。まず、コースメニューの「ホームページ」をクリックします。「表示」タブをクリックし、プレビューモードにします。「講義資料」をクリックし次に「序」をクリックします。図 17 のように表示されたでしょうか？

次に PC で作成したファイルをアップロードしたものを利用してみましょう。

Netscape Composer (その他 HTML ファイルが作成できるものならば何でも構いません) で図 18 のようなファイルを作成し、2_mate.html という名前で保存しましょう。

My-Files にファイルをアップロードするには「ファイル管理」を利用します。ウィンドウ左側のコントロールパネルから「ファイル管理」を探してクリックしてください。続いて以下の手順に従います。

1. 画面右「オプション:ファイル」の下の「アップロード」をクリック
2. 「ファイルを選択」(ブラウザによって表現は異なる)をクリックし、さきほど作成した 2_mate.html を選ぶ。
3. 「アップロード」をクリック



図 16



図 17

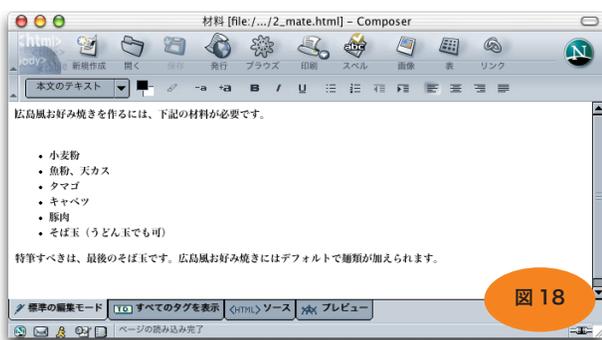


図 18

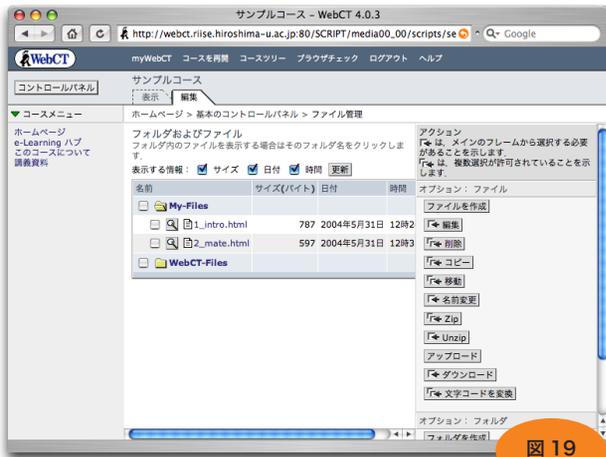


図 19

図 19 のように、アップロードしたファイルが表示されます。

今回は単独の html ファイルからなるページをアップロードしましたが、図などを含んだページを利用したい場合は、まず PC 側で必要なファイルをまとめて zip 圧縮します。zip ファイルを My-Files にアップロードした後、ファイルオプションの Unzip を行なうと、WebCT サーバ上で展開できます。

さて、ファイルの準備ができましたので、これをコンテンツモジュールに追加します。以下の手順に従って下さい。

1. コースメニューの「講義資料」をクリック。
2. 画面右「オプション：目次」の下の「ファイルを追加」をクリックする。
4. 図 20 のように、My-Files のファイルが一覧表示される。2_mate.html を選んで、追加をクリック。

以上です。メニューバーの「表示」をクリックし、コンテンツモジュールが期待どおりに動作することを確認してください。



図 20

コンテンツモジュールの中味を表示している際、ブレッドクラムの下に「アクションメニュー」が表示され、「前」や「次」等のアンカーで目次の順序に従ったナビゲーションが可能になっています。これらのナビゲーション機能を使ってページを移動した場合、ページトラッキング機能で「ページを見ていた時間」として参照されるデータが生成されます。

コンテンツモジュールを更新した際には、必ず「学生ビューを更新」を一回クリックして下さい (図 21)。そうしないと、学生は新しい内容を閲覧することができません。



図 21

2.6 テスト・アンケートツール

次に、小テストを作成してみます。WebCTのテストツールは自動採点機能を持っています。この機能を利用すると、学生は自分の得た得点を即座に確認できますし、教官も採点の手間を掛けることなく、学生の理解度を把握することが可能です。

小テストとして出題できる問題の形式には

- 選択問題
- 整合問題
- 計算問題
- 短答問題
- 小論文問題

があります。ここではもっとも基本的な形式である選択問題を使ってみましょう。

WebCTのテスト・アンケートツールは、図23のように質問データベースに問題をあらかじめ作っておき、それを各回のテストやアンケートで使用するという形態になっています。質問の形式や内容、正解を定義するのが質問データベース、質問データベースから抜きだした質問を配列したり配点を決めたり、学生への結果通知方法を設定したりするのが各回のテストやアンケートと言う事になります。

それでは、図22のようなテストを作ってみることにしましょう。

まず、テスト・アンケートツールをホームページに追加します。コントロールパネルの「ページまたはツールを追加」をクリックし、「テスト・アンケート」をクリックします。前回と同様にタイトル等を記入する画面が表示されますので、タイトルに「テスト」と記入し、「ナビゲーションバー」「オーガナイザページ」にチェックを付けて、「追加」をクリックします。

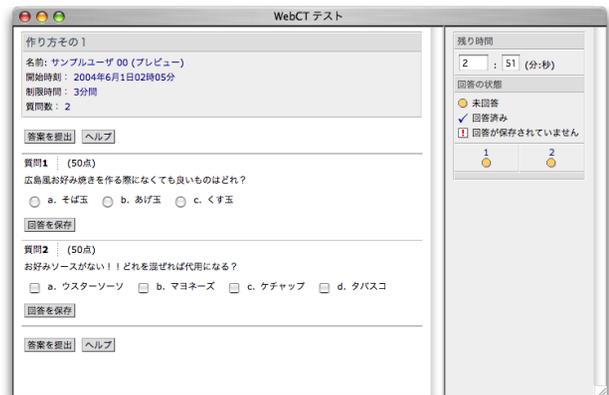


図 22

質問データベース

カテゴリ	質問タイトル
作り方	必要になる材料は？
	適切な鉄板の厚みは？
	タマゴはいつ投入する？
	ひっくり返す時のコツを書け
文化的側面	広島のお食文化に占めるお好…
	広島人のアイデンティティ…
アンケート用	お好み焼きは月何回？
	町内に何軒お好み焼き屋が…

テスト：第一回復習テスト

質問	学生の回答
必要になる材料は？	
タマゴはいつ投入する？	

アンケート：第一回アンケート

質問	学生の回答
適切な鉄板の厚みは？	
お好み焼きは月何回？	

図 23

選択形式の質問

質問
カテゴリ: 作り方

*タイトル: 材料

*質問: 広島風お好み焼きを作る際になくても良いものはどれ?

数式: 数式を作成 数式エディタ
フォーマット: HTML テキスト
画像: ブラウス...

設定
選択できる回答数: 単一回答 複数回答
得点: 累積 全問正解に限る
負の点数を付与: はい いいえ
選択肢の配置: 垂直 水平
選択肢の順序: ランダム 順序
選択肢の順番: 数字 文字

回答
回答 1: 正解
そば玉
フォーマット: HTML テキスト
配点(%):

1 のフィードバック:

回答 2: 正解
あげ玉
フォーマット: HTML テキスト
配点(%):

2 のフィードバック:

回答 3: 正解
くす玉
フォーマット: HTML テキスト
配点(%): 100

図 24

次に、質問データベース内に問題を作成します。

1. 画面の上の方にある「質問データベース」をクリック。
2. 画面右「オプション：カテゴリ」の下の「カテゴリを作成」を選択しする。カテゴリタイトルとして「作り方」と記入し「作成」ボタンをクリック。
3. 画面右「オプション：質問」の下に「質問を作成：」がある。ポップアップメニューで「選択形式」を選んで「OK」ボタンをクリック。
4. 質問内容を記入する画面になるので、図 24 のように記入する。
5. 「保存」をクリック
6. 「質問を作成」でもう一つ質問を作る。
7. 以下のように記入・設定する

タイトル: ソース

質問: お好みソースがない!! どれをまぜれば代用になる?

設定: 学生に選択を許可: 複数回答

設定: 採点方法: 全問正解の場合のみ

設定: 回答レイアウト: 水平

回答 1: ウスターソース (正解)

回答 2: マヨネーズ

回答 3: ケチャップ (正解)

回答 4: タバスコ

8. 「保存」をクリック

図 25 のようになります。質問のタイトルをクリックすると内容を編集することができます。拡大鏡のアイコンをクリックすると、学生に出題されるとき形式で確認できます。

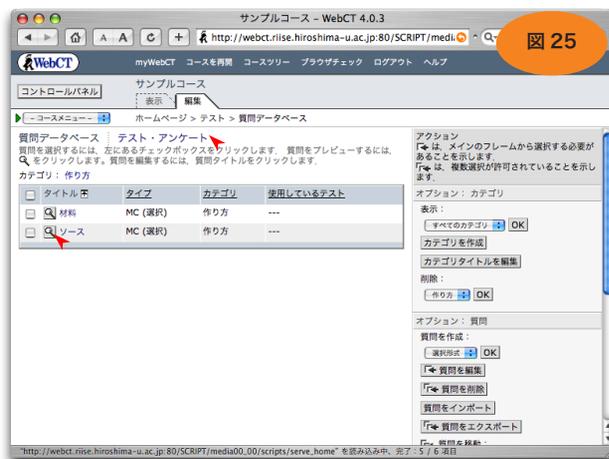


図 25

次に、テストを作成します。画面上の「テスト・アンケート」をクリックします。

1. 画面右の「テストの作成」をクリック。
2. タイトルに「作り方その1」と記入し、「作成」をクリックする。
3. テストが追加されました。テストのタイトル「作り方その1」をクリックし、内容を編集します。
4. 画面右「オプション」の「質問を追加」をクリックします。すると、質問ブラウザが表示されます。
5. カテゴリ「作り方」をクリックして、「ソース」と「材料」の左にあるチェックボックスを両方ともオンにします。
6. 画面下の「追加」をクリック。
7. 点数のカラムに50を二つ記入し、「合計を更新」ボタンをクリック(図26)
8. 「テスト設定の編集」をクリック。
9. 図27,28のように設定し、「更新」をクリック。

以上です。テストツールは作成しただけの状態では学生からアクセスすることができません。かならず9のステップで「開始日時」を設定しておく必要があります。今回は「今すぐ許可」をクリックしてください。

これで小テストの設置は完了です。前にも書いたように、小テストは学生でない人と受験することができません。実際に受験して動作を確認するには、ダミーの学生でログインする必要があります。

2.7 その他の機能について

今回のチュートリアルはここまでです。WebCTシステムには、オンラインマニュアルが一通り揃っていますので、その他の機能についてもぜひお試しください。何か疑問の点がありましたら、センターのWebCTサポート用メールアドレス

wbt-adm@riise.hiroshima-u.ac.jp

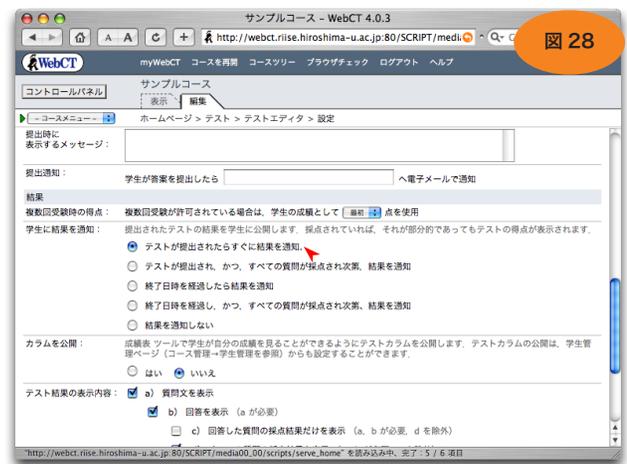
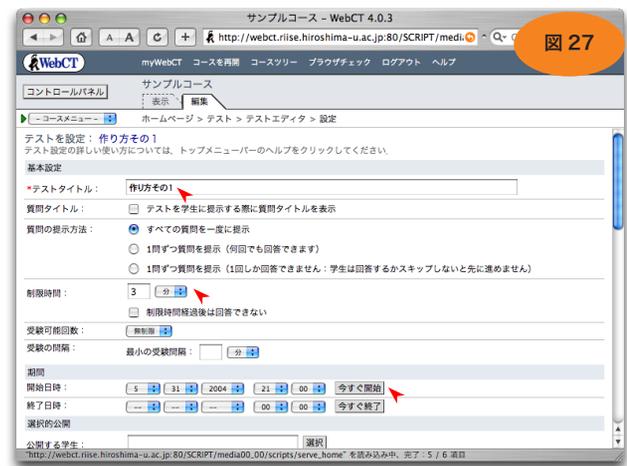
またはWebCT利用教官用メーリングリスト

wbt-ml@riise.hiroshima-u.ac.jp

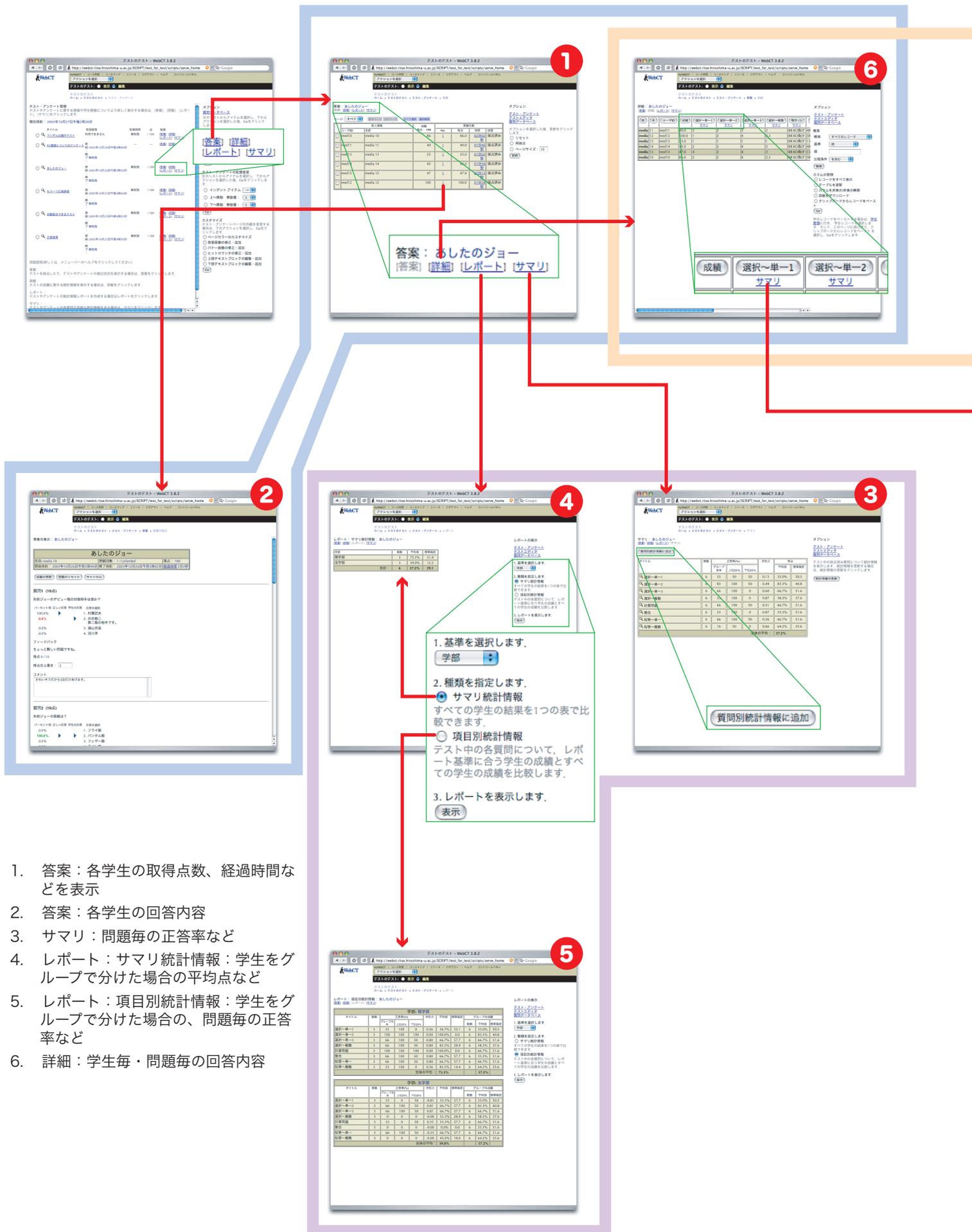
にご連絡下さい。

その他の機能も含んだチュートリアルマニュアルがWebCT社のホームページ (<http://www.webct.com/>) からダウンロードできます。WebCT社に置いてあるのは英語版ですが、バージョン3.6用のもの(注:センターのWebCTシステムは現在4.0CEです)であれば日本語版が存在します。センターのWebページよりダウンロードできますのでご利用下さい。

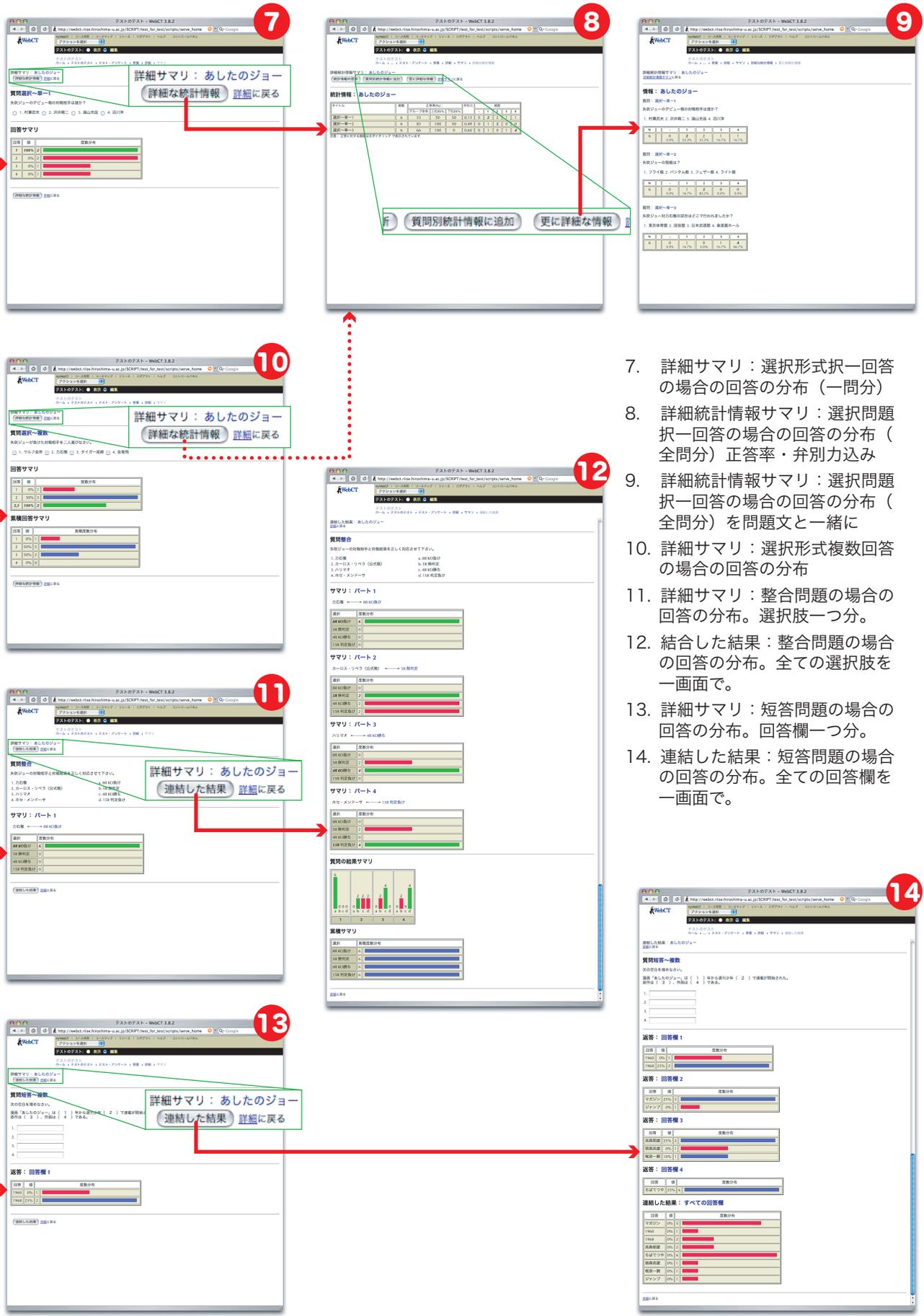
また、同じ場所からデザイナー用のリファレンスマニュアルもダウンロードできます。これは3.6用の英語版返ししか出ていないようです。



テスト・アンケートの分析ツール一覧 (WebCT 3.8)



1. 答案: 各学生の取得点数、経過時間などを表示
2. 答案: 各学生の回答内容
3. サマリ: 問題毎の正答率など
4. レポート: サマリ統計情報: 学生をグループで分けた場合の平均点など
5. レポート: 項目別統計情報: 学生をグループで分けた場合の、問題毎の正答率など
6. 詳細: 学生毎・問題毎の回答内容



- 7. 詳細サマリ：選択形式択一回答の場合の回答の分布（一問分）
- 8. 詳細統計情報サマリ：選択問題択一回答の場合の回答の分布（全問分）正答率・弁別力込み
- 9. 詳細統計情報サマリ：選択問題択一回答の場合の回答の分布（全問分）を問題文と一緒に
- 10. 詳細サマリ：選択形式複数回答の場合の回答の分布
- 11. 詳細サマリ：整合問題の場合の回答の分布。選択肢一つ分。
- 12. 結合した結果：整合問題の場合の回答の分布。全ての選択肢を一画面で。
- 13. 詳細サマリ：短答問題の場合の回答の分布。回答欄一つ分。
- 14. 連結した結果：短答問題の場合の回答の分布。全ての回答欄を一画面で。

3. 広大ローカルルール

最後に WebCT システムにおける広大のローカルルールに付いて少し触れさせていただきます。

3.1 WebCT ID 発行状況

学部生は、全員 WebCT システムに登録済みです。WebCT ID はセンターの UNIX アカウントのものと同一で、u + 学生番号 になっています。パスワードもセンターのものと同一です。

大学院生は全員登録にはなっていません。後述の学生管理ツールを使ってコースへ登録しようとすると、新しくアカウントが自動発行されます。

教職員は申請により発行しています。

3.2 WebCT ID とコース作成の申請

教職員の方が WebCT システムを利用される場合、wbt-adm@riise.hiroshima-u.ac.jp 宛に下記の情報をお送り下さい。

項目	例
氏名*	芽出亜 太郎
所属*	メディアセンター
電子メールアドレス*	media@hiroshima-u.ac.jp
内線番号:	7777
希望する WebCT ID*	media

コースを作成される場合も、wbt-adm@riise.hiroshima-u.ac.jp 宛てに下記情報をお送り下さい。

デザイナーの WebCT ID*	media
コースの名称*	情報メディア活用演習
授業開設部局:	総合科学部

3.3 コースへの学生登録について

WebCT のコース管理機能を使って学生をコースに登録することができます。コントロールパネルの「コース管理」をクリックし、「学生管理」の下の「追加」をクリックします。

図 29 のような画面が表示されますが、この中で利用できるのは「グローバルデータベースからインポート」の「学生を一人ずつコースに追加する場合」だけです。

これではあまりにも不便なので、広大独自の学生管理ツールを用意しています。こちらはコースの中からではなく、myWebCT からアクセスします。所属機関ブックマークにリンクがあります。広大学生情報システム「もみじ」からダウンロードした CSV ファイルを使って学生を一括登録することもできますので、ご利用下さい。

3.4 リソース

メディアセンターの Web サイト内に WebCT に関する情報を掲示しています。

<http://www.riise.hiroshima-u.ac.jp/webct/>

教職員の方が申請により WebCT システムに登録された場合、WebCT 利用教官用のメーリングリスト

wbt-ml@riise.hiroshima-u.ac.jp

にも登録させて頂いています。WebCT のバグ情報、サーバのメンテナンス情報などは主にここで流しますので、ぜひご覧下さい。

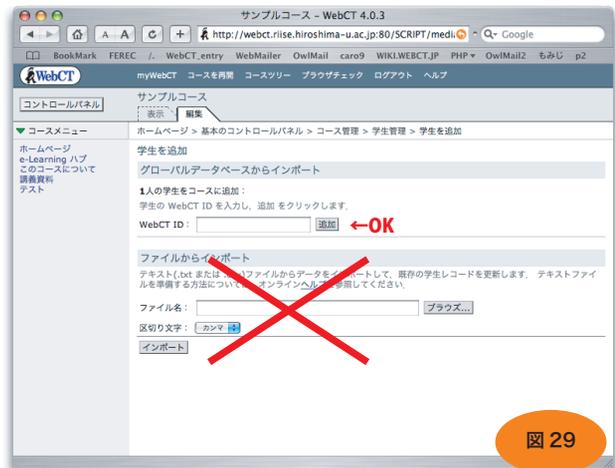


図 29

図 30

